

県民の森の植物 No.89 ウメガサソウ (ツツジ科 ウメガサソウ属)

常緑小低木。草のように見える高さ 5 cm ほどの小さな小さなツツジです。林床でひっそりと梅のような白い花を俯いて咲かせます。

葉は輪生状に付き、長さは 2-3 cm ほど。縁には尖った鋸歯があります。花は下向きですが、実として熟してくると上向きになります。茶色に熟すと他のツツジと同じように裂けて散開し、種を飛ばします。冬は雪に埋もれて雪布団の下で過ごします。

県民の森では針葉樹の林床などで見られます。目立たないので、気を付けてじっくり足元を見て歩かないと見過ごしてしまいがちです。出会えた時は嬉しくて思わず歓声を上げてしまいます。



冬芽 2021/4/20



芽吹き 2021/6/8



花 2024/6/25



若い実 2024/8/31



昨年できた実 2021/4/11

森林ふれあい学習館 ギャラリー 展示

お問い合わせ：学習館 ☎0195-78-2092

たかはしともあき 水彩画展

2025年6月2日(月)～30日(月)

故郷の八幡平や東北の自然の風景を描き続けて8年、現在80歳。心あたまる作品をどうぞお楽しみください。

【たかはしともあきプロフィール】高橋奉昭。1945年松尾村（現八幡平市）生まれ。中学まで松尾村で生活し、大学で上京。定年退職後は料理、庭いじり、レコード鑑賞、読書、そして水彩画と、多彩な趣味を楽しむ毎日。現在三男と一緒に仙台で暮らす。



岩手県民の森 2024年

かわいすぎるオコジョたちII

～細川敬次 写真展～

2025年7月3日(木)～31日(木)

森の妖精オコジョをはじめとした東北の山で出会った動物たち。一年を通じて山に入っているカメラマンならではの躍動感あふれる写真を展示いたします。

【オコジョ】体長 20-30 cm ほどの胴長短足のイタチの仲間。動きが早く木登りや泳ぎも得意。肉食性で鳥類や森のネズミや小型のウサギなどを捕食しています。寒冷地の高山地帯に生息しているため、滅多に出会えないのですが、その可愛らしさから絶大に人気を誇る「森の妖精」とも呼ばれる小動物です。八幡平では運が良ければ茶臼岳周辺などで出会えます。



オコジョ 早池峰にて 2023年

【細川敬次プロフィール】20歳の頃から登山に親しみ、現在も八幡平や岩手山などに年60回ほど通う山岳カメラマン。奥州市在住。78歳。

岩手県森林公園

県民の森だより

2025.

6

Vol.233

発行 岩手県民の森
(公益社団法人
岩手県緑化推進委員会)

【毎月5日発行】



ヤマボウシ（昭和の森） 2024/6/1

森の中はエゾハルゼミの大合唱。春からはじまった花のリレーは次々と選手交代しています。開花して盛りをすぎたと思ったらまた次の樹種が花を咲かせ、まるでパトントッチをしているかのようです。そして気が付くと花のあとに若い実ができて、すこしずつ成長しています。そうして、ゆっくりと季節が動いていくのです。

岩手県民の森 管理事務所

〒028-7302

岩手県八幡平市松尾寄木 1-515-5 森林ふれあい学習館フォレスト i

TEL. 0195-78-2092 FAX. 0195-71-1778

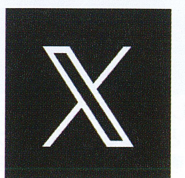
開館時間：9:00～16:00 火曜休館（祝日の場合翌日振替）

アイ

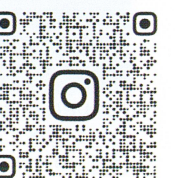


岩手県民の森 検索

Instagram 始めました



@forest_iwate



@MORI_IWATE

【ギャラリー出展者募集中】学習館ギャラリーでは、地域の皆様の作品を展示しています。利用料は無料。サークル活動の展示や個人の作品展等にご利用ください。展示が初めての方もお気軽にご相談ください。お問い合わせ：学習館 ☎0195-78-2092

5-6 月に咲くニシキギ科の仲間たち

同じ科の樹木は、異なる樹種でも花や実が似ています。でも、よく見てみるとそれぞれ個性的で特徴があります。仲間の木を探して比べてみるのも楽しいです。

ツリバナ



2022/5/22 吊花の名の通り、緑白色～薄紫色の花が垂れ下がります。
【右】 2022/11/8 実の直径 1 cm ほどの球形で、熟すと 5 つに割れて、中から朱色の皮に包まれた種が出てきます。

サワダツ



2024/6/27 別名アオジクマユミの通り、枝が緑色です。花は精巧な砂糖細工のようでとても愛らしいです。
【右】 2024/10/1 実のツリバナに似ていますが、浅く 5 つにくびれます。

ニシキギ



2022/5/28 錦のように美しく紅葉することが名の由来。コマユミと似ていますが、ニシキギには枝に薄い板状の翼があるので見分けられます。ひっそりと淡緑色の小さな花をつけます。葉は対生。
【左上】 2022/11/22 実の長さ 5-8 mm の楕円形の実を 1 ～ 2 個ずつつけます。

マユミ



2024/6/13 枝がしなやかで弓の原料にしたことが名の由来。控えめな緑白色の直径 1 cm ほどの小さな花をつけます。葉は対生。
【右】 2022/11/24 直径 1 cm ほどの倒三角形で 4 個の稜があります。淡紅色の実の熟すと 4 つに割れて中から朱色の皮に包まれた種が出てきます。

コマユミ



2021/6/1 ニシキギと似ていますが、枝に翼ができません。このあたりの山麓ではコマユミがよく自生しています。花はニシキギと同じです。
【右上】 コマユミの実のニシキギと同じです。

ツルウメモドキ



2021/6/13 上記 5 種はニシキギ科ニシキギ属ですが、ツルウメモドキはニシキギ科ツルウメモドキ属。蔓性で葉はニシキギ属とは異なり互生です。
【右】 2024/11/27 実の直径 7-8 mm ほどの球形で黄色に熟すと 3 つに割れて、中から朱色の種が出てきます。生け花やクラフト材料としても人気です。

なかなか見ることができない高木のシナノキ属の花

高木なので、花は知っていても真近で見たことはない経験ありませんか。県民の森なら見られる場所があるかも知れません。

オオバボダイジュ



2024/6/29 淡黄色の小さな花が多数垂れ下がります。花序の柄には特徴的な長さ 7-11 cm ほどの狭長楕円形の総苞葉がつきます。

シナノキ

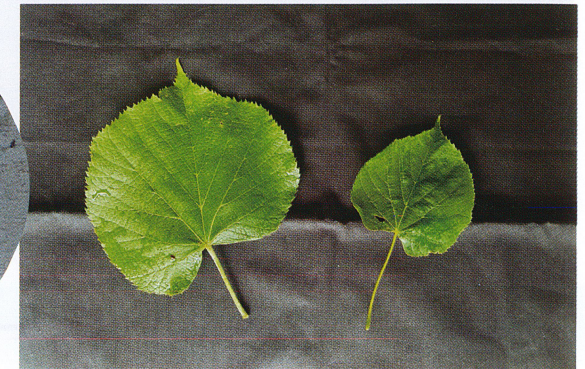


2024/6/29 シナノキの花は雄しべが花弁より長く飛び出しているのでツンツンした印象です。花序の柄にはオオバボダイジュ同様に総苞葉がつきます。

シナノキ、オオバボダイジュとも、北日本の山地によく自生しているアオイ科シナノキ属の落葉高木です。
どちらも蜜源植物で、蜂蜜が採れ「シナ蜜」と呼ばれています。花は香りが良く、花期には沢山の虫たちが集まり羽音が聞こえます。
シナノキはこのあたりでは「マダ」「マンダ」と呼ばれ、古くから樹皮を布や縄として利用してきた身近な木です。
なお、釈迦が入寂したことで有名な菩提樹はインドボダイジュで、葉っぱは似ていますが、クワ科の全く別の植物です。
県民の森では林縁に植栽されている木が枝を垂らし、高い場所にあるのでなかなか見ることのできない花を真近で触って観察することができます。



2022/9/8 地面に落ちた実。
左がオオバボダイジュ、右がシナノキ。総苞葉がプロペラの役目を果たして、風に乘って回転しながらゆっくり落下します。



2024/6/2 葉 左オオバボダイジュ / 右シナノキ
先は尾状に尖って、基部がゆがんだハート型。オオバボダイジュは長さ 7-13 cm、幅 6-11 cm でシナノキより一回り大きいです。また、シナノキは葉裏の葉脈の脇のみに毛が生えていますが、オオバボダイジュは葉の裏全体に毛が密生して白く見えるので見分けられます。

県民の森 自然イベント

お問い合わせ：学習館 ☎ 0195-78-2092

新緑の森さんぽ 2025年6月21日(土) 10:00 ～ 12:00 (昼休憩無)

【定員】 10 名
【参加費】 1,000 円
【集合】 9:45 に森林ふれあい学習館

森林インストラクターと一緒にエゾハルゼミの鳴く森をゆっくりと歩いて岩手山麓の自然を楽しめます。

【初心者対象】
【小学校高学年以上対象】



講師：渡辺修二氏（岩手県立博物館） 県民の森で昆虫観察 2025年7月5日(土) 9:00 ～ 12:00 (昼休憩無)

【定員】 15 名
【参加費】 2,000 円
【集合】 8:45 森林ふれあい学習館

講師と一緒に初夏の園内を歩いて県民の森の昆虫を観察します。

【初心者歓迎】

